

2024年4月18日

● **メインプログラム**

**白鳥パストガバナー卓話**

**市原ロータリークラブ60年の回顧**



市原ロータリークラブは1964年6月22日に29名の創立会員を擁して発足しました。

その創立会員のなかに病院の院長を務めていた酒枝次郎会員がおりました。酒枝さんは乗馬とともに敷地内に厩と馬場を備えているほど馬を好み、馬事一般にわたる造詣の深い人でした。また幕末の戊辰戦争（1868～1869）で上野の山にこもり戦っていた幕府側の彰義隊は敗北し、千葉に逃れてきた幕府軍の残党を新政府軍は養老河畔に追い込み、決戦となった戦いを詳しく書いた「五井戦争を駆け抜けた

五人の青年」を上梓しています。いわば郷土の気骨ある文化人でありました。

当クラブの創立40周年の記念誌作成のために2005年チャーターメンバーの酒枝会員を囲んだ座談会を行いました。その中に創立時の興味ある話はいくつかありますのでここに披露します。

**また官軍がやってきた**

市原ロータリークラブが創立する数年前のことでしたが、半農半漁であった市原の沿岸部では漁業権を放棄して千葉県方式の埋立事業に賛同し、莫大な補償金を得て町は空前の補償金ブームに沸いていました。一方、大手の企業は埋立地に次々と工場建設を始め、山間部では社宅用団地の造成で遠浅で魚介類が豊富であった沿岸部と緑豊かな丘陵地帯は一変してしまい、人口は一挙に増えてインフラが追い付かない状況でした。

その反面、従来の住民は急激な変化に戸惑いを感じ、五井のある古老が「また官軍がやって来た」と言っているのを聞いた酒枝会員はドキッとした覚えがあったそうです。戊辰戦争の時、官軍が攻めて来たのと同じ感覚を抱いたのではと思います、このままにしておいてはこの市原の町は時代の流れに埋没してしまうと不安に駆られて、有志で「急激な都市化・工業化に伴う新しい市民の考え方、在り方について」のシンポジウムを何回か行ったそうです。

## 市原ロータリークラブの立ち上げ

こうした状況下にあって、ロータリークラブなるものを作ろうという機運が町有志の間で持ち上がり、1964年6月に創立総会を迎えました。当時の急激な都市化・工業化に対して、市民全体が持ち得る共通の価値観を見出す場所とか機会を求めていたものと、ロータリーの理念（親睦と奉仕の精神）が合致していたので、地元の有力者が主体となってロータリークラブを立ち上げたといえます。大手進出企業の方はロータリークラブの創立そのものにはコミットしていないが、市原市の地域住民と交流しなければならない見地から所長または工場長クラスがロータリークラブに入会したといえます。

千葉クラブの本部真之様が特別代表として指導され、クラブは4年目にして50名と会員は増加し、会員構成は進出企業の代表が多く会員の半数を占めており、それが市原ロータリークラブの特徴となったのであります。

市原ロータリークラブ誕生が昭和39年という市原市制が敷かれた年（1964年）であり、東海道新幹線が開通し、東京オリンピックが開催された年であります。

エピソードの一つとして創立総会後の通常の例会で五井に住んでいた地元の会員が「停電して困る。隣の電灯は点いているのに俺のところは点かない」「配電会社が昔の継ぎ足し配線のままにしているから停電が度々起こる」と話していたのを会員の東京電力の今村さんが聞いていたのでしょうか。次の例会の時までに配電会社が配線を全部変えてしまい、停電を無くしてしまいました。今村会員は傍で聞いていただけなのに、即座に苦情を取り上げて直してしまったといえます。

これがロータリーだなと別な意味で感じたといえます。

5年経過すると袴を外して打ち解けあい、クラブ活動は外へと目が向いて中学生の弁論大会に寄付をしたり、京葉高校にインターアクトクラブを結成したりしました。この頃、後にガバナーとなった齊藤博会員はクラブ幹事となり、クラブの定款・細則を整へてクラブとしての体面を整えました。さらに齊藤会員は個人でクラブ情報をしっかり学び、クラブ会員には出席率100%を義務付けたのです。クラブはアカデミックな雰囲気はただよってきたといえます。5年目にしてIGF（都市連合一般討論会）のホストをしています。これは今のグループ単位で行っているIMのことですが、当時は埼玉県と千葉県が一緒だから規模やレベルも今のIMとかなり違い、ホストクラブは名誉なことでしたが、クラブは大変だったようです。

## 市原ロータリークラブは田舎のクラブだ

酒枝会員が分区代理を務めた 1971 年に、当時の森田パストガバナー主催の会長・幹事会が京成ホテルで開催されたとき、8 代目のクラブ会長の川上さん、副会長の河合さん、幹事の齊藤さんが暑いからと半袖にノーネクタイで出席したところ、森田パストガバナーから「何故ネクタイをしてこないのか」と問われ、「暑いから」と言ったら、森田さんが「市原は田舎のクラブだから、まーよいでしょう」と言ったことに対して、3 人は怒って腹の虫がおさまらず、滅茶苦茶に飲んで酔っぱらって帰ってきたといひます。それ以来、10 数年間、市原のクラブは田舎のクラブと言われるようになったといひます。

創立 10 周年行事には出光会館で大勢の S K D のダンサーによるレビューと将棋の大山名人の講演で素晴らしい周年行事を行いました。以来、市原のクラブ行事のアトラクションには S K D のレビューを欠かすことのない定番となりました。

## 酒枝会員とレントゲン車の寄贈

昭和 51 年（1976 年）に酒枝さんは、旧日本軍の償いとして中古のレントゲン車を徹底的に修理して、フリッピン島の死の行進で知られているコレヒドール島のバターン半島に贈ったのです。輸送費が高いので時の政治家に依頼して車の輸送費をただにしてもらい、酒枝さんと齊藤博さんは現地に赴きレントゲン機器の操作の指導をしたのです。二人はホテルに宿泊したのですが、ヤモリが這いまわっているのが現地の介在者である牧師さんの家に泊まったのです。その牧師さんの奥様のお父さんがバターン半島の死の行進をさせられた時、住民が水を差したところ日本兵に手を叩かれてしまった。それを恨みに思っていたが、「あなた方は良いけれど日本兵は嫌いだ」といわれたそうです。その奥さんが病気になるまで日本の医療を受けにきて酒枝さんのところに入院されて回復し、良い印象を持って帰国したそうです。とても大きな国際親善でした。

## 齊藤 博会員が分区代理のとき

齊藤博会員はロータリーの原理・原則を学び、その学んだロータリーの思想を私たちにロータリー情報の一環として話してくれました。齊藤さんが分区代理になったとき田舎のクラブと思われていた市原ロータリークラブから分区代理ができることに不安があったのでしょうか。千葉には 5 クラブの合同事務所があり、そこに挨拶に行ったら 5 人の事務の女性から一斉にじろっと一瞥され、ビビってしまったそうです。けれども分区代理として事前に会長・幹事を集めてやらなければならない新しいプログラムを提案したところ、その後は真摯な態度で協力してくれたそうです。

## マレーシア ペタリングジャヤ RC と姉妹クラブ関係を結ぶ

11年目にマレーシアの首都クアラルンプールの近郊にあるペタリングジャヤ市のロータリークラブと姉妹関係を結び、数年にしてインターアクトクラブの会員（5～6名）の短期交換学生相互訪問を始めました。40年近くこの事業は続きました。はじめの頃はマレーシアのマハティール首相が「ルックイースト」と言って「日本を見習え」といっていました。当時、日本はマレーシアより経済や工業化が発展していたのですが、近年はマレーシアに追いつかれた感じがします。この事業は交換学生にとって視野が広くなり、海外に関心を持ち双方にとっても良い結果をもたらしています。私たちもペタリングジャヤロータリークラブとの交流から多くを学び、ロータリーの国際交流と国際親善を大いに楽しみました。

1984年（昭和59年）の市原ロータリークラブの20周年記念にはペタリングジャヤロータリークラブからも大勢のロータリアンと家族がきて、市原ロータリークラブの定番となったSKDの公演があり、ポレロの旋律にのったダンスはとても好評でした。田舎のクラブといわれていたが、面目を一新したといえます。

## 姉妹クラブと短期交換学生事業

姉崎神社の宮司さんの海上さんがクラブ会長（第19代）の時ペタリングジャヤロータリークラブを訪問した折に短期交換学生の実施が決まり、当時インターアクト委員会の委員長をしていた私は交換学生の詳細な内容の取決めと第1回引き受けの責任者となり、関係者の皆さんの知恵を借り、正月を挟んでの1ヶ月間交換学生の面倒をみました。通信手段は電話と手紙しかなく連絡に極東石油の所長の齋藤 信さんには大変お世話になりました。

## 北帰行

齋藤信さんと言えば、齋藤信さんが「北帰行」を作詞・作曲した宇田博さんと旅順高校の同級生であったことが、齋藤博さんが「北帰行」の唄ができた経緯を卓話した時に分かったのです。

齋藤信さんは大連で敗戦を迎え治安が悪くなり身の危険を感じたとき、使用人であった中国人に大いに助けられたそうです。使用人だった中国人は中国共産党のシンパだったのです。使用人に対する齋藤家の対応がよかったからと話して、「国際親善は国対国でなく個人対個人の間柄で築かれるものです」とおっしゃっていました。

事程左様に、ロータリーでは一介の生業とする者では体験できないことを経験させてくれます。

「縮み志向の日本人」の著者で知られる李<sup>り</sup> 御寧<sup>おりよん</sup>さんをはじめ幫間<sup>ほうかん</sup>（太鼓持ち）の桜川善平師匠まで幅広く各界の話しを聞く機会があり、世間が広くなり、いろいろと感化されて人生にとってこれほど素晴らしい団体は無いとつくづく思い、ロータリークラブに入会して良かったと思ったものでした。

### 齊藤博会員ガバナーに就任・市原中央 RC 誕生

齊藤博会員が 1987～88 年に地区ガバナーに就任し、市原ロータリークラブから 8 人の中堅会員が移籍して市原中央ロータリークラブを誕生させました。特別代表として小出善三郎会員が就任しました。齊藤博さんはロータリーの歴史と理念・思想をクラブや地区全体にあらゆる機会を通じてロータリーの思想を啓蒙していました。

こういうこともありました。ロータリーの歴史・理念・思想の解説を 1 月のロータリー理解月間に 3 回におよぶ齊藤博会員の卓話を企画した時、例会の出席率が落ちるから止めるようにとの意見がありましたが、実施してみると逆に出席率が上がったのです。それを小冊子にまとめたのが市原ロータリークラブの「ロータリーのしおり」であります。

齊藤さんがロータリーを学術的な考察でロータリーの本質を分かり易く説明してくれたからだと思います。現在のロータリー情報研究会の提唱者でもあります齊藤さんは、多くのロータリアンがロータリーの原理・原則とは何かを知り、それを己の人生に供してロータリーは「人生をいかに生きるかを学ぶところだ」と結んでおります。

私たちは「このロータリーの葉」を教科書としてオーソドックなロータリーの心を身に付けていなければならないと、今の世相において痛切に感じております。

### 創立 30 周年記念事業

小出善三郎さんは齊藤博ガバナーの地区幹事長を務め、続いて市原中央ロータリークラブの特別代表となって 1991 年 6 月には市原市長となりました。その時、市原ロータリークラブは 30 周年記念行事を迎えました。市原市も市制執行 30 周年なので、その記念事業に便乗し、市民会館で盛大に開催しました。市原クラブの定番である春日宏美とプリティガールズ（SKD）を招いてショウと栗原小巻 主演による「復活」も上演しました。

### 民族舞踊団シャリシヤンの公演

その後 35 周年にはスロバキアの民族舞踊団シャリシヤンの踊りと歌を市民大ホールにて行い、

市民に無料で観劇して頂きました。当舞踊団はスロバキアの学生で構成され、世界の民族舞踊団のコンクールに優勝した舞踊団でした。クラブからの援助資金 80 万円では到底賄えず、スロバキア大使館に相談し、スロバキア国の琥珀の宝石、ボヘミアングラス、ビール、ワインの仕入れと販売を許可していただき、さらに観客の寄付金などで補うことができました。ロータリーの事業は、情熱を持ちさえすれば、知恵が湧き、協力を得られる事を知り、事業を通じて教えられることが沢山ありました。

市原 CATV にてロータリークラブの解説と民族舞踊団シャリシヤンの歌と踊りを放映しました。驚いたことにフォークダンスを愛好する団体やファンは遠く金沢市や鎌倉市、県内の各地から馳せ参じて観劇して喜ばれました。35 周年記念号事業として企画したのではなく、赤星会員の友人とのご縁でできたことでした。

平成年度に入ると日本のバブル経済が崩壊し、株は大暴落し、金融機関は膨大な不良債権を抱え込み日本経済は長い不況に沈み込みました。当クラブの特徴であった大手企業の所長・工場長、金融機関の支店長は相次いでクラブを離れてしまい、2015 年には会員数は 40 名にまでなったのです。その中であっても 2004 年には 40 周年記念事業をホテルニューオータニで開催し、上総国分尼寺跡に山桜を記念として植樹しました。

### 「ないことの美しさ」 山田 守 会員

当クラブの社会奉仕活動の山田守会員の提唱する「ないことの美しさ」について触れます。

山田守さんは伝統工芸部門（常滑焼）の人間国宝である山田常山の弟で建築家ですが、代々陶芸家という「伝統」と「芸術的環境」に育った山田さんは、兄さんと同じ血と感性を持ち合わせており、「美は道徳的に善であり、醜こそ唯一の悪である」といって「静かな美しい街作り」を目指して街に氾濫する騒音や、自然の美しさを損なっている看板や電線を埋設することをライフワークとしていました。活動の一環として当クラブでは千葉駅から発車ベルを無くすシンポジウムを開催し、千葉駅から発車ベルを無くしております。バス内の余計なアナウンス、当時流行していたBGMもそうです。「そんなもの無くてもよい」から「ない方が静寂でよい、ない方が景観を損なわない」と転じて「ないことの美しさ」をテーマとしたのです。

また、本物を聴かせようと中学生にソプラノ歌手の佐藤則子さんの歌と語りを聞かせ中学生の情操教育に大きな効果を上げています。地区でも社会奉仕活動として地区内の各中学校に出向き好評を博しました。山田さんは「ないことの美しさ」を掲げ、妥協なき実践活動は、まさに「孤独は知性はある」を地で行く人でした。他に類を見ない知的な社会奉仕活動であります。

### 「事業の節目に注いだ執念」 山崎 邦夫 会員

職業奉仕の理念を経営に反映させて事業の成長の節目に地域社会への感謝と社員の誇りと己への発奮の意を込めた社会奉仕活動の物語です。以下「ロータリーの友」に掲載されたものです。約16年間匿名でしたが、あるロータリアンとは山崎会長のお父さんであるアヅマ株式会社の山崎邦夫さんのことでもあります。ロータリーの友に掲載された文章ですが、山崎さんの強い執念は素晴らしい社会奉仕活動の源となっているのがよくわかります。

### 二年連続のガバナー

2006年になると私が地区ガバナーに就任しました。地区大会では元財務大臣の塩川正十郎氏の講演と定番のレビューとロータリアンの芸術展を大々的に開きました。ことは順調に進展していましたが、地区のガバナーノミニニーが前年の12月に交通事故を起こして全治6か月の重傷となってしまう、ガバナーとしての任務遂行の可否をめぐって長々とした審議の末、2007年1月11日の指名委員会で私が前代未聞の二年連続でガバナーを務めることになったのです。急ぎよ、第3分区の13の各クラブから1名を推薦していただいて、地区幹事団を編成したのです。

ガバナーを務め、一方ではガバナーエレクトの務めを果たすという二役を果たすことは気持ちの切り替えが容易でありませんでした。幹事団の献身的な協力により、各種セミナーの開催や予算編成等々をこなし、滞りなく地区運営をやり遂げました。懸案であった地区の会計を短期間で見事に確立したことは、地区幹事団の面目躍如たるものがありました。

### ペタリングジャヤRC50周年記念式典出席

2010年西村美和子会長の時ペタリングジャヤロータリークラブの創立50周年記念式典(2011.1.6)に参列しましたが、かの国の式典は宗主国の英国スタイルでドレスコードは厳しく、その州のサルタン拝謁のもとに式典が行われます。式典は厳粛でしたが、後は秩序ある楽しいパーティーでした。

### 3. 11 東日本大震災

2011年3月11日、東日本に大地震と大津波が発生し未曾有の被害をもたらした。原子力発電所は爆発事故を併発して東日本は大混乱となった。原発事故のため交換学生は急ぎよ帰国するやら日本列島は一時麻痺状態になりました。義援金を募り、東日本の立ち直りのために機関を通じて拠金をしました。そのような状況下でもクラブはニコニコやバザーの売上金などもとにして社会貢献基金を設け、市内のボランティア団体に活動資金を提供してまいりました。

## 創立 50 周年記念を祝う

2014 年 6 月には節目の 50 周年記念大会を齊藤博会員が大会会長となり「園まり 歌謡ショー」をアトラクションとしてホテルニューオータニにて 300 余名のお客様を招き盛大に開催しました。

## 例会を月二回にする

2017 年度になると例会を月 2 回以上すればよいということで、いち早く当クラブでは月 2 回の例会を採用して年会費を減額したところ、会員数が徐々に増加し、近年は一挙に 70 名を突破し、なおも会員増が続いて現在は 80 名に達しています。

会員構成は大きく変化してまいりました。一時は大手の企業の会員は一人もいなくなり、地元企業の若い会員が増え、平均年齢が一挙に若くなりました。最近、金融機関をはじめ大手企業の方が復帰しつつあります。

## 千葉交響楽団演奏会を無料で開催

2020 年篠田会長の時、55 周年記念事業として、千葉県交響楽団を招聘し、市原市民会館大ホールにて市民に無料でコンサートを開催して好評を博しました。

このように当クラブは伝統的にロータリーの歴史や思想を究めると同時に知的な活動、文化活動が盛んであり、クラブと個人奉仕ともに地域社会に貢献してまいりました。

50 周年後、急激な会員増によりロータリー情報の徹底が疎かになり、その点では一時クラブは低迷を辿ったのですが、徐々にロータリー情報が会員に浸透し、活気を帯びてきた市原ロータリークラブの将来が楽しみになっています。

60 年を振り返ると実に多士済々な会員の面影が走馬灯のごとく思い出され、チャーターメンバーの酒枝次郎さんの国際奉仕、信念の人 山田守さん社会奉仕 執念の人 山崎邦夫さんの社会奉仕は実に個性豊かな才能を発揮して個人的な奉仕活動を展開してまいりました。

PDG 斎藤博さんはロータリーの本質を説かれ 市長になった小出善三郎さんはクラブの運営に模範を示しました。クラブとしては世界的な民族舞踊団シャリシヤンの公演や 騒音のシンポジューや千葉交響楽団の演奏会開催など文化的な社会事業を行い、地域社会に貢献してまいりました。さらに地域社会奉仕団体にも資金を援助、PJRC との短期交換学生事業などそれらが今日の市原ロータリークラブの特徴となり、伝統となっています。今後も連綿と引き継いでいきたいと思います。



## 今後の決意とお願い

今後、市原ロータリークラブは、世界のロータリアンに共通の中核的価値観（親睦、奉仕、多様性、高潔性、リーダーシップ）に磨きをかけて世界理解、親善、平和を推進していかなければなりません。そのために、クラブの基本姿勢は常に相手を尊敬して話し合う対等の人間関係を築き会員同士の対話を大事にしていかなければなりません。

価値観に磨きをかけるということは、ロータリアンの心の内の充実と、たゆまぬ向上心の探求を意味します。つまりロータリアンの切磋琢磨によって磨かれた人間性が、ロータリーの公共イメージアップにつながり、会員増強に役立つのです。同時に社会奉仕や国際奉仕においても質の高い効果的な活動に良い影響を与えてまいります。

ロータリアン同士が対等な関係を保ち、謙虚さを失わず、向上心がある限り、市原ロータリークラブは永遠に不滅です。

ロータリーは人間を大事にする団体、人の尊厳を大事にする団体、人間の間を大事にする団体として発展してまいりました。さらに、己の人格向上を目指す団体であります。

ロータリークラブではいろんな人との出会いが実に多い。同じ価値観を持つ者同士の出会いと対話は、人生をこころ豊かにしてくれます。これらがロータリーの大きな魅力であります。この60周年記念を機に私たち市原ロータリークラブの会員はさらに精進を重ねて、ロータリーの本質である「己の人作り」を追及して、まことのロータリアンとなり、世に役立つ人間になることをここに誓っていこうではないか。